

会 議 録

会議の名称	第6回西東京市男女平等参画推進委員会会議録
開催日時	平成14年10月23日 7時から9時まで
開催場所	西東京市市民会館第5会議室
出席者	(委員) 神島委員、加藤委員、赤石委員、石井委員、今城委員、岩西委員、佐藤委員、高橋委員、田口委員、角田委員、中村委員、西山委員、淵脇委員 (事務局) 三芳主幹、岩田係長、森山主査、イテジ 2人
議 題	1 アンケート項目の検討
会議資料	なし
会議内容	発言者の発言内容ごとの要点記録
発言者名	発言内容
副委員長	今日は委員長が風邪で発熱のため欠席との連絡が入っているので、副委員長が司会を代行する。
事務局	市報でお知らせした今日の検討テーマは前回の会議の進行に合わせて、変更している。市報の締め切りが1ヶ月前ということもあり、傍聴の方にはご了承願いたい。
副委員長	議事録の確認ということで、何かあれば。
委員	議事録について修正あり。二枚目の裏側。「保健婦」との表現は、議事録上は「保健師」に変更を。
副委員長	今日はアンケート項目について、何のために聞くのかを明確にしながら、柱にこだわらず案を出していきたい。 今日はどんなことを聞くのかを洗い出し、次回グループに分かれて内容を詳細につめて行き、具体的な調査票のイメージにしたものについて11月の2回目の委員会でさらに検討をしていきたい。 進め方について意見があれば。
委員	よいと思う。
委員	アンケートとして成立するかどうか聞き方が難しいと思うが、男女平等について、どう考えるのか聞いてみたい。 保谷市の報告書の自由記入欄で、「男女の参画って何なの?」という意見が何件か出ている。男女平等という意識は人により違う。100%一緒でないと平等でないという考えや、ジェンダーでなくセックスの違いを踏まえただけの平等などさまざま。 最終的に施策に落とし込む場合、市民がどれだけの平等性を求めているのかを知った上で、足りない部分はより周知するなど意識づくりが必要になってくる。
委員	先日新聞で、「女らしさ・男らしさ」を撤廃するのが男女平等というような取られ方をしていた。一方で、「女らしく・男らしく」生きたいという人もいて、それを侵してくれるなという趣旨の会議もあるそうだ。 それらを踏まえると、市民は男女平等参画について、したいかどうか、どういう視点で男女平等を願っているかという意識調査が必要かと思う。

委員	男女平等をどう考えるのか、ある程度委員会としての方向性を出してからでなければ、ばらばらになってしまうのではないか。 男女の違いというのは性別による違いと、社会的な性差によるジェンダーというものがある。私たちとしてはジェンダーの意識をなくして、社会的な性差をなくしていくという方向が確認できる。それを踏まえないと、「男らしさ・女らしさ」というのはとても茫漠とした言葉で、それによって子どもを育てるのは母親の役割だということに流れやすい。役割を想定しやすい言葉である。できれば項目に加える前提として、共通認識をつくったほうがよい。
副委員長	全体的な項目をアンケートでとって、トータル的に市民が男女平等についてどう考えているかを見ていったほうがよいのではないか。
委員	平等とはまったく一緒にするのではなく、個性を生かし、本来その人がもっている可能性を大切にすること、阻害しないことが基本だと思うが、まったく均等な待遇、すべてまったく等しくすることを「平等」ととらえる人もいる。 平等というのをどう考えるかというのはとても難しい。ベースになる考え方がはっきり伝わらず、「男らしさ・女らしさをどう考えますか」と聞くと、「らしく生きたい」と答える人が多いと思う。この委員会で共通認識を作っておかないと、出てきた答えをどう見るかは難しい。自由記入式で聞くと平等をどう考えているか出てくると思うが、%で聞くとその人がどうとらえたかを知るのは難しい。どんな平等社会をどれくらい望んでいるのかは知りたいところではある。
委員	暴力の実態の有無を是非聞きたい。暴力といった場合に、DV、ストーキング、性的暴力の有無など。 DVといっても、心理的虐待から骨折までいくつか段階があるので、系統だてたものを入れてほしい。 また、DVがあった場合に、誰に援助を求めたのか、どうしたのか、DV法、ストーキング法を知っているか、実際に使ったのかなども入れてほしい。
委員	西東京市に女性相談ができていますが、DVを受けた人がそれを知っているか、活用したか聞きたい。 使わなかった人はなぜ使わなかったかも知りたいが、それは難しいかと思う。知らないということであれば、より周知が必要であろう。
委員	誰に相談したのかにとどめず、それで解決したのかまで聞きたい。 「夫婦間暴力」という表現は不正確ではないか。「配偶者からの暴力」とするのか。
委員	アメリカでは、「配偶者またはパートナーが」というのが定義として使われている。日本では「事実婚もしくは内縁の関係にある」と書いてあるが、「夫婦間」というのはあまりに狭い感じがする。「パートナー」ぐらいではどうか。
委員 事務局	「～間」ではなく、「誰からの」としたらどうか。 1つずつやっていくとなかなか案が出にくいと思うので、手元の紙に書き出したものを見ながら話を進められてはどうか。
副委員長	男女平等について市民の意識を知りたい、暴力については実態を知りたいということだと思う。

委員	<p>両立支援、就労のところで、現在就労していない理由について、選択肢の検討は必要だが入れる必要がある。二年前と経済の状況が変わっているので今回もぜひ入れたい。</p> <p>保谷市の調査に出ている、「働きたいが就職先が見つからない」、「育児・介護を必要とする家族や親族がいる」、「子どもを預ける施設がない」などは、市が何をできるかの課題に即繋がるので落とせない項目だと思う。ファミリーサポートができていますので、それを知っているか、利用しているかなど。</p> <p>両立のためにどんな障害があるのか、男性の働き過ぎということが出てくると思うが、それを確認することができるのではないかと。</p>
委員	<p>市が取り組んでいるさまざまな事業についての市民の認知度を聞いてほしい。さらにそれを必要と思うかどうか。</p> <p>両立支援のためにどういうことが必要か、いろんな施策を羅列しておいて、どれが必要かを聞く。</p>
委員	<p>市がなすべき施策は何かを聞くのも大事だが、やっている事業について何をほしいと思っているのか、重要なのかを聞くのがよいと思う。</p> <p>子育て支援については一見多様な選択肢があるようだが、実際に使いやすいかどうかということもある。実際に使いやすいのか、使いにくいのかを聞くこと今後の施策の参考になる。</p> <p>両立支援と共に、専業主婦の子育てについて、学校が5日制になって土曜日の受け皿など、子育てしやすい環境がどういうものか聞ければ。</p>
委員	<p>3連休が多く親は何をしていいのかわかっている。</p>
委員	<p>自営の人は、時間が長くなって休めなくなっている。</p>
副委員長	<p>地域での子育て環境をさぐってみるといふことか。</p>
委員	<p>児童館の役割を聞くなど。</p>
委員	<p>子育てに何を困難と感じているのかの両面で聞けば、施策としてこれからの課題になる部分と、ある程度充実している部分が見えるのではないかと。</p>
委員	<p>前のアンケートのように3つまでをという形式で抽象的なことを聞くよりも、現在の市の事業について困難を感じているのか、どうしてほしいのか、など具体的な要求・不満点・改善点などが聞けるような項目を入れていければ。</p>
副委員長	<p>他の調査のデータも活用しながら、取りたいデータという絞り方をしていけばいいと思う。</p> <p>両立支援とともに、地域での子育て環境について聞いてみたいということだった。</p>
副委員長	<p>基本的には、市民が男女平等に対してどれだけの意識があるか、何を望んでいるかが調査の目的だと思う。</p>

委員	保谷市の調査では家庭についての質問の中身が家事だけになっているので、「収入を得る」という項目を付け足してほしい。 また、あなたの育った家庭ではどうだったのかをまず聞いて、それから現在はどうかを聞けば、男女平等が進んできたというのがアンケートを答える人にも感じられるのではないか。 パラサイトしている人の場合は、全部母親がやっているということも見えてくるのではないか。
副委員長	何のために必要なのか。
委員	まず自分の生活に立ち返って、時代の変化を感じられるように。
副委員長	アンケートの主旨と違うように思うが。
委員	主たる生計を維持している人は誰かということで、1つの世帯の中でどういように生計を賄っているかが見えてくる。 また、今後変化する可能性があるか、変えたいのかを聞くと現状についての不満を見ることができる。不満があれば、もっと就労したいという意識が見えてくるのではないか。
副委員長	就労意識を取りたいということによいか。 社会参画についてはどのようなことがあるか。
委員	施策で何が欠けていると感じているのかを市民に聞くこととして、西東京市の施策の中で女性の声が十分反映されていると感じるか、というのを、政治・行政のあり方・産業・経済・仕事・まちづくりなど5つぐらいの領域で聞いてみる。 性・年齢・就労形態のクロス集計をとると、意義のあるものがでてくるのではないか。
委員	市民からの施策の評価を聞いてみてはどうか。 さらに、市の審議会の女性の委員割合は個別に見るとばらつきがあるので、あらゆる領域に両性の声がバランスよく伝わるように、両性がバランスよく入っていくことが望ましいとなるような項目をつくりたい。 一般的なあらゆる領域で女性の声が届いているかと聞いて、その後、市政の中で届いているかということ。 審議会にバランスよい配置が重要だと思う。
委員	政治・経済・生活・地域社会・教育など各分野ごとに認知度が違い、要望も違うので、それぞれについてどうかということ聞いていくことに意味があり、施策を考えるうえで参考になるのではないか。一般論で女性の声が反映されているかどうか聞いても意味がない。
副委員長	市民参画をしてみたいか、何がネックでできないのかを聞いてみたい。
委員	賛成。時間的なものではないかという仮説がある。
委員	教育については、本当はアンケートの対象者として、教員に聞きたい。 男女平等参画を必要と思うのかどうかを聞くところから始めたい。 男性・女性として育て方を変えられたかどうかを聞きたい。 また、家庭教育、学校教育の中で、男性・女性として生き方を指導されてきたか。 教育というよりも、子育ての方にかかわってくることもかもしれない。 全部を聞いた後にそういったことを聞いたら面白いのではないか。

委員	アンケートの技術論的な話になるが、言い回しの問題で、「子育ての中で、性別にとらわれないような育てられ方が行われていると思いますか」という聞き方でクロス集計すれば、評価だから、実態とは違いがあるが、分析としては意味のあるものが得るのではないかと。問題意識をどういう質問に置き換えるかという技術的なところ。
委員	何のために聞きたいのか、聞いたことがどう生かせるのかという視点は大切だと思う。 職場での男女差別の実態を具体的に聞いてみたい。それを是正すれば、男女平等を実現するのにどうすればいいかの答えになる。働きつづけるには、として先ほどから意見があったが、再雇用の際のブランクをうめるために何ができるのかなど。 行政ができる施策・課題として市のレベルでは、地域での子育て支援体制、職業労働開発支援、起業支援、パート・派遣労働者の労働条件整備などが考えられる。宿題になっていたので、調査項目を具体的に考えてみた。
委員	折角書いていらしたので、次回原案作成に生かしていくと良いと思う。
委員	健康問題について、この調査でどういうことができるのかいい案がうかばないので、少し紹介してほしい。
委員	自分のオリジナルではなく、ネット検索で他市事例を見ながらセレクトしたもの。 性と人権とリンクするところもあると思うが、母性保護、女性保護として大切なものとして、健康診断、保健指導、妊娠出産について気軽に相談できる施設、育児休暇・産前産後休暇でどれが必要か、リプロダクティブ・ライツでは子どもをもつか、何人もつかの決定の主体、妊娠したときその子どもを産むかの決定の主体、中絶、性犯罪、避妊についてパートナーと話し合っているかどうか、母体保護法の問題、思春期・更年期の心と身体の健康のため行政に望むことといったものをピックアップして聞いてみたいと思った。
委員	児童虐待の有無について取れば、ファミリーサポートは職業をもっている方に援助があるが、密室のなかで子育てしている専業主婦にとって、1時間でも誰かが見てくれると心が穏やかになるということがある。まだ具体的な質問は思い浮かばない。 教育のところ、家庭内でどんな教育が行われているか。しつけ、教育など。DVの場合、家庭内で意識的に非暴力の寛容性、暴力で解決してはいけないということを教育することで、将来の加害者が激減したという実態がアメリカにある。家庭でそのようなことが行われているか。意識的に行われているしつけ、教育が聞けたらいいと思う。
委員	仕事を持っている人にどのような支援・施設が必要かだけでなく、専業主婦の人が1時間だけでも預けられる施設を必要としているのかどうかを調べられれば。

委員	<p>子どもの心の問題として、今、子ども自身すごいストレスを抱えている実態がある。</p> <p>不登校の子どもを抱えて、そのケアをしながら働きつづけることは、男女平等と言っても現実には父親と母親で要求のスタンスが違い、負担は一方的に母親にくる。スクールカウンセラーなどのケアが進みつつあるが、学校側は、子どもに問題性があるというスタンスである。</p> <p>個別のケアとして処理されているが、こういうことから仕事と子育ての両立不能という問題が増えてくるのではないか。アンケートの中にどう組み込めるかという問題はあるが、児童虐待とあわせて、大変な問題であり、広がってきている。</p>
委員	<p>在宅ワークの希望というのが増えていると思う。新しい仕事の持ち方について実態がどれくらい広がっているのか、希望として家で仕事をしたいかどうか聞くのがよいのでは。</p> <p>またインターネットが進展すると、高齢者の女性が情報を得ることが難しくなるのではないかと考えている。</p>
副委員長	<p>親や配偶者の今後の介護の方向をどう望んでいるのかも聞いてみたい。</p> <p>高齢者の介護についてどう考えているかということ、介護保険により実際にどう変わったのか聞いてみたいと思う。</p>
委員	<p>全体的に意見が出たと思うが、ほかにあれば。</p> <p>女性センターへの要望や、男女平等推進条例の必要性など、聞き方を工夫して聞ければ。</p>
副委員長	<p>行政に望むことの選択肢の一つとして入れることはできるのではないか。</p> <p>皆さんのお手元に、委員の一人から夫婦の役割分担の実態を時間で表しものが出されている。妻が在宅ワーク、夫がサラリーマンということで、普通のタイプというわけではないが、データとして出していただいた。このように家事分担について聞いてもおもしろいと思う。</p>
委員	<p>子どもが10ヶ月で妻に負担がかかっている部分がある。今後はペイド・アンペイドのバランスが取れた方が、男女共同参画として望ましいと考えている。</p>
委員	<p>保育園に行っているのか。</p>
委員	<p>行っていない。育児時間が5時間となっているのは、他の家事と並行処理している部分があるためである。</p>
委員	<p>学校で父親に出てほしいことがあっても、仕事に逃げていることが多い。</p> <p>この実態は話し合いでなっているのか、自然になっているのか。</p>
委員	<p>親が話し合って生活をしていると子どもも自然に理解するようになる。</p> <p>子どもが生まれてからの家事の役割分担は話し合いをしたが、細かいところまでは決めていない。何かやらないといけない時は、気が付いたほうがやる。</p>
委員	<p>男女の性差による役割分担をしていないということ。</p>
委員	<p>2人いるから気付いた方がやるということで、話し合いは継続している。</p>
委員	<p>家庭の中で企てられているとまずいと思うが、自然にいくというのはすばらしい。</p>

副委員長	時間や比率だけでなく、主が従かなど、どこまで責任を持っているか、%で自分の意識を図ってみるとおもしろいと思う。
委員	並行に行っているので、厳密に取るのは難しい。
副委員長	女性と男性で同じ実態に対する意識が違うことがある。 特性に繋がってしまう危険性がある気がする。
委員	男女の意識の違いはあると思う。
委員	アンケートに結びつけるとすると、役割分担についての不満や話し合いをしているかなど聞いてみるとおもしろい。
委員	家庭における役割を聞き、それが話し合いので決まったのかどうか見ていくとよい。単純にどちらが何%という聞き方をすると、生活の糧を得るためとのバランスがあり意味がない。どのように決めたのか、それが満足な状態なのかの方がより意識や実態が見えやすいのでは。
委員	家庭の中で話し合いがあるかどうかというのは、「和」が重要なポイントだと思う。何のための男女平等なのか、共同参画なのか。平等にならないといけないということがあるとしても、男女の相互理解、尊重しあうことが目指す先にあるのではないか。
委員	話し合いができていくのかというのを加えていくのはよいと思う。 今後世の中を担っていく子どもたちの意識も知りたいと思う。 子どもたちが親をどう見ているのかなど。自分が将来どうしたいと思っているのか。
委員	話し合いができるかどうかというのは大事な視点だと思う。
副委員長	今のアンケートの中にあまり低年齢を入れていくのは現実的ではないのではないか。来年度補助的に聞くなどを検討するほうが現実的ではないか。
委員	少数者についての項目というのは入れづらいが、一方で夫婦や子どものいる家族を前提としていることがおおよそアンケートになるのがいいのかどうか。 少数者に対する配慮が感じられる方が望ましい。モデル家族を想定しすぎるのはよくないのではないか。
委員	家庭科の教科書にある「多様な家族」という表現にクレームもあるそうだが、さまざまな形態の家族があり、数が少ないからといって無視してよいものではない。 家族がどんな生活をしていくのか、どう変わっていくのか。例えば住宅は家電化がどんどん進んでおり、今までの家事分担という考え方だけではなくなってくる。その中で家族のコミュニケーションをどうとお互いに納得のいく家庭をつくっていくのが重要だと思う。ライフスタイルモデルのような家族をイメージしてしまうことに気を付けないといけない。 項目に入れられなくても前振りの中で断りを入れるなりしていかないと、イメージしているものが固定化していると受け取られる。
副委員長	基本的にいろんな形態の家族を認めていく。それぞれ充実した生き方ができる社会環境がつくられているというデータをとっていくべき。
委員	今の役割分担に満足しているのか。何が加わったら自分が目指す家庭像になるのかなど。

副委員長	満足感は個人差があるので、アンケートで取るのは難しいのでは。ヒアリングであれば聞けるかも。
委員	自由記述で書いてもらえないか。
副委員長	法律的な動きをどう認知していて、どう考えているのかを取ってはどうか。西東京市で生かせなくても、国に上げていくなかで生かせるのではないか。今日は思いつくまま出したので、次回グループに分かれてもう少しつめていきたい。
	グループ分けをどうするか案があれば。
	意識づくり・就労・性と人権・少子高齢化・社会参画が出ているが、人数が少なくなるので就労と社会参画をまとめてはどうか。就労は自治体では難しいので両立支援が主になると思う。
	グループに分かれて、何のために必要なかを整理したい。
	それぞれの希望を聞いて、グループを分けたい。
	グループ分け
	「意識づくり」 田口、高橋、角田、加藤
	「就労（雇用・労働）」 今城、赤石、西山、中村、名古屋
	「性と人権」 石井、佐藤、堀口
	「少子高齢」 淵脇、岩西、神島
委員	本の紹介をする。「エガール」の3月号でも紹介されているが、鹿島敬さんの本は、男性の視点で男女共同参画的なとらえ方をされている。「男女摩擦」は岩波書店から、岩波新書から入門書的なものもでている。
副委員長	マスメディアについては性と人権の中で検討をしていただきたい。